

ハーブティ Vol.20

ひとひと
～女と男をかんがえる～

ハーブティ：「ハーブ (herb)」は香草のことで、茎や葉を生あるいは乾燥して使います。これが心と体にバランスのとれたよい刺激を与えることから、女と男も互いにバランスのとれたよい関係であるように、また一杯のお茶から地域のネットワークも広がれば…という願いがこめられています。

男女共同参画社会とは、だれもが、互いに尊重し、喜びも責任も分かち合いつつ、性別にかかわらず、その個性と能力をじゅうぶんに発揮し、自分らしく生きることのできる社会をいいます。

この**男女共同参画社会**の実現を目指してスタートした「ハーブティ」も今年で10年を迎え、これまで19号を発行してきました。

この10年間、社会や個人に変化はあったのでしょうか？

そこで、初代「ハーブティ」編集委員(平成10～12年)の皆さんにお集まりいただき、「ハーブティ」に携わったことにより自分に変化や発見はあったのか、また家族、職場、友人、活動の仲間等周囲、あるいは町全体で変化や動きを感じたことがあったかなどをお話しいただきました。

小野さん

ハーブティは自分を変えてくれた。可能性にチャレンジする気持ちが生まれ、一歩踏み出す勇気を与えられた。すでに地域ではグループ活動が活発になっており、現在では健康づくりを推進し、男女を問わず着実な意識の変化を感じている。



浅野悦子さん(左) 中根正義さん(中) 小野由馨枝さん(右)

中根さん

最近感じることは、人は言葉のイメージから入っていくので、「シニア」「老人クラブ」などの言葉を使ってほしくない。以前は男性だから・・・女性だから・・・と言う声もあったが今はあまり聞かない。女性は積極的になった。地域で男性が活動できる場所を作ったが参加者の6割が女性だった。議会にも女性が進出し、女性の活躍する場所が増えたと思う。

井上さん

10年前の編集当時、男性中心の職場で活躍する女性を取材したことがあったが、今では女性の職業選択は広がり、「男性の職場」という意識がなく、多くの女性が活躍している。

ハーブティに創刊号から4年間携わり、書くことで自分を表現する喜びを知った。今も書くことで何かを伝えていければと思う。外に出かけることで多くの人と出会い、それが自分の心の栄養となり、次に挑戦する気持ちが生まれる。



井上由香さん(左) 渡辺幸代さん(右)

渡辺さん

男性と女性の感覚が違うときは、男性の意見を消化して女性に伝える努力をしている。また、高齢者は知識と知恵を若い人に伝える立場であり、自分の年代は世代間の仲介役と考えて自信を持って伝えている。

自分の事より周りを最優先にしてきたが、少しずつ自分が出せるようになった。自分を出すことは衝突することでもあったが、それを経て今は家族や地域と「共に生きる」自分に変わった。共に乗り越えてきた夫はパートナーであり同志でもある。

浅野さん

10年経って社会的に「男女共同参画」の意識が高まってきている。10年前は女性の地位向上が叫ばれていたが世の中は変わった。当時は女性の社会進出(働く事)が推奨されていて自分も同感していたが今は疑問に思う。女性が子どもを育てる環境を作っていく事が大事。基本的には人間が人間を育てる。これからの社会は人づくりを考えてほしい。

金子さん

男女共生という言葉を目にしてから10余年、自分の周りで変化はあったかと言うとなかなか感じることはない。しかし、こんな事も。共働きの家庭で週末になると、家事を分担する男性が増えてきた。これが自然だと、本人も周りも思えるようになってほしい。

出来る事、好きな事、やりたい事をこだわりなく出来たらと思う。構えずに男女ではなく、ヒトとして！(金子美津江さんはコメントのみいただきました。)

パートナー？ 主人？ それとも・・・それとも・・・？

お話の中で出た疑問です。

「自分の夫はパートナー、つれあいと呼ぶけど話し相手の夫をどう呼んだらいいかしら・・・」
「社会的、対外的には主人が一般的よね」
「名前で呼ぶ人もいるわよ、それって分かりやすいわよね」
「自分は夫と呼ぶけど相手には違和感を持ちながらもご主人と呼んじゃうのよね」



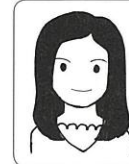
古くて新しくてまだ答えが出ない問題。しかも言われないと気付かない問題。

みなさんはどう思われますか？
いい呼び名をご存じのかたはぜひお知らせください。



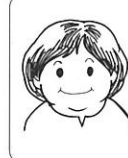
編集後記

渡辺 あづさ



10年前と比べ今は「男女共同参画」に対する意識が高まってきていると感じた。私自身も「ハーブティ」を通してさらにその意識を高めて行くと共に、皆さんに伝え、一助となればと思う。

笠井 朋子



諸先輩方の貴重な体験談を聞く事が出来て、とても良い経験になった。「ハーブティ」の志を自分なりに理解していきたいと思っている。

小野寺 晴美



各地で様々な取り組み、活動が行われていることをこの編集の機会を通して実感した。その様子を少しでもご紹介できたらと思う。このコーナーがみなさんにとって一杯のハーブティーになります様に。

編集委員募集

○いっしょにつくりませんか？

「ハーブティ」編集委員を募集しています。編集委員会(月2回程度)のほか、取材、執筆、レイアウトなどを行います。町内在住・在勤、男女問いません。興味のあるかたはぜひご連絡ください。

町民活動推進課人権担当内線 354

※「ハーブティ」は、今年度から広報しらおか9月号及び3月号に掲載されることになりました。